

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 2月 26日

事業所名 ぶっちいさらだ

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○			広い空間は少ないが、各居室の数・特性に合わせて、個別に児童に寄り添った支援を行っている。小集団・個別の支援を充実させていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	○				
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			玄関の段差が高めのため、付近にいる児童への声掛けをしたり、玄関下にはマットを引き、落下時の衝撃を和らげるようにしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			長期休み時の活動や利用についてのアンケートを実施している。長期休み明けにはその結果についてのミーティングを開き、振り返りを実施している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年、法人HPの適所に更新している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		外部機関の第三者評価を受けられるよう、今後は評議員の方の見学・ご意見を頂く機会の検討をしていきたい。
適切な 支援の 提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			研修に参加出来なかった職員には内容を回覧、または参加した職員がミーティングで振り返りを行い周知している。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			月に数回、職員全体で活動内容の立案、内容の確認、以前の活動の振り返りなどのミーティングを行っている。活動企画担当は、限定せず全員に割り振りを行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童の意思決定を尊重し、活動内容を企画段階から児童に参加してもらう機会を設けている。また、固定化しないように以前の活動内容と比較し、活動内容を決定している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			活動・支援内容を一定化せず、その時期によって設定している。また、平日と休日などの活動に差別化をし、活動内容を充実できるよう努めている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			全職員で、児童の利用前に事前ミーティングを行っている。その時に事前に活動内容や割り振りなどの確認を行っている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	その日の出勤者ではない職員にも、共有できるようにミーティングノートを作成し、その職員はそのノートを閲覧している。常にノートを振り返りできる状態にある。	支援終了後の振り返りなどの情報共有の時間は都合上、次の日を取っている。必要事由に関しては、共有ツールを用いて即時共有を行っている。当日に共有できる仕組みの充実も考えていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録に主観が強くなり過ぎないように、周囲の職員と状況を確認しながら記録をしている。その記録を用いて、モニタリングや支援の改善にもつなげられている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現在は主に児童発達支援管理責任者が出席している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			
関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な児童は利用していない。必要であれば、連絡体制を整えていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関との連携が必要となった場合は、連携し、専門員による助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		昨年度以前までは、定期的に交流はあったが、令和2年度はコロナ禍の影響で実施できなかった。コロナウィルス感染症の拡大が落ち着いたら実施したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に直接話したり、電話連絡、連絡帳のコメント欄などで、児童の情報共有を行っている。都度、課題やニーズがあればヒアリング、対応、そして共有を行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレント・トレーニングを受けた職員が中心に、家族支援・対応を行っている。		

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用契約時に、書類を作成し説明している。質問や問い合わせがあれば、直ぐに内容に対し応答している。		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			日々の送迎時や保護者対応時などで、相談などがあれば、迅速に対応している。必要であれば、その課題やニーズに対し、解決に向けた支援する。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		昨年はコロナ禍の影響で開催できなかった。コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いたら実施したい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○					
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○					
	35	個人情報に十分注意している	○				HDDのバックアップシステムの強化を行った。また、共有サーバーシステムを用いて、個人情報の取り扱いや情報漏洩に努め、バックアップも毎日行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				その児童・保護者に合わせた情報伝達方法(会話・電話連絡・視覚支援等)を取り入れている。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		事業所単独では行っていないが、地域住民が参加できる行事に参加しており、そこで活動紹介や作品展示をしている。		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				各マニュアル策定および職員への周知は出来ている。今後、契約書、重要事項説明書と共に、誰でも閲覧できるよう準備している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				消防訓練(総合)・地震を想定した避難訓練・洪水避難訓練を実施した。避難訓練に関しては、児童も参加した。	今後は津波やその他の災害訓練やマニュアルの見直し等も進めていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				権利擁護および虐待防止に関する研修を行った。参加出来なかった職員には、資料配布と振り返りをし周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				グループで身体拘束等に関する委員会が定期的に開催されている。これまで身体拘束を行ったことはない。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			○		利用前や利用中のモニタリングなどでアレルギーについては保護者に聞き取りを行っている。医師の指示に基づく対応等についても、今後必要に応じて実施していきたい。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				毎日のミーティングや月に数回行われる全体でのミーティング時に、事例を共有し再発防止に向けた検討を行っている。出席できなかった職員に関しては、ミーティングのノートを記載したり、書類を作成し回覧している。		